

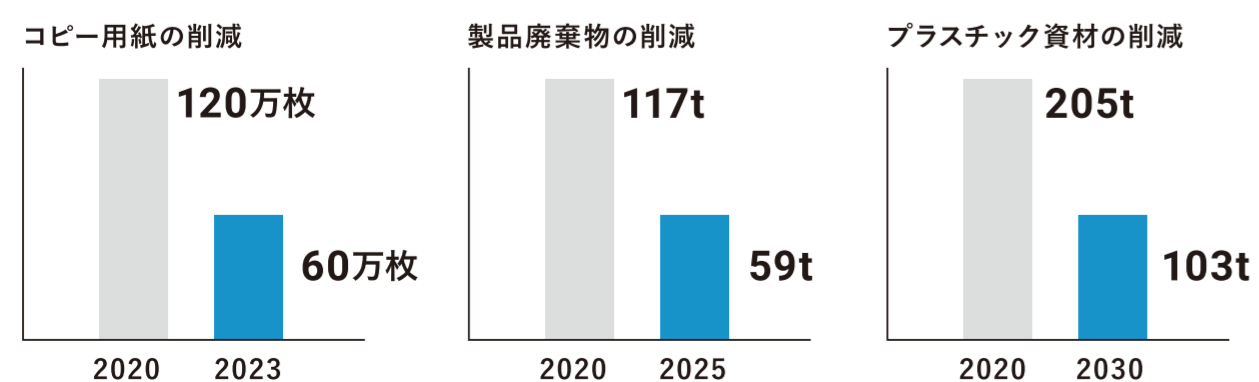
Mマークシリーズにできること 持続可能なブランドであるために

あれこれ加えるのではなく、必要なものを配合する。1995年に発売して以来、家族みんなで使えるブランドとしてご愛用いただいている松山油脂のMマークシリーズ。環境問題の顕在化やコロナ禍などに直面し、新しい生活様式、新しい価値観が広がっていくなか、Mマークシリーズにできることを改めて考えています。環境負荷を減らすために、容器や資材はどうあるべきか、安全・安心な原料基準とは何なのか、お客様や社会にとって公正な販売形態とはどのようなものなのか。この先の30年もお客様に選んでいただくために、そして、松山油脂が考える持続可能性をわかりやすく体现するブランドであり続けるために、Mマークシリーズの存在意義をゼロから考え、お客様に改めて提案します。



環境負荷低減に向けた目標 いまでできることに誠実に取り組む

事業活動のなかで無駄をなくし、廃棄物を削減して環境負荷を低減します。年間約120万枚使用しているコピー用紙、返品や販売終了のためにやむを得ず廃棄している約117tの製品、年間約205t調達している製品用のプラスチック資材を、それぞれ期限を決めて50%まで削減します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

松山油脂は「日本と世界の人々のデイリーウエルネスに貢献する」ことを目的にモノづくりを続け、製品を提案してきました。SDGsで定められた2030年までに達成すべき17の目標に対しても、デイリーウエルネスの基本である「心身のすこやかさと日常の豊かさ」を第一に考えて行動し、社会課題の解決に努力します。

働き方改革(WORK2024)の推進 働きやすさと働きがいを両立する制度づくり

スタッフが、主体性と多様性を広げつつ専門性を高められる制度を増やしました。個性や強みを生かせる仕事、新しいスキルやノウハウを身につけられる仕事、自分にしかできないと思える仕事。それらを実現できる場となり、働きがいのある会社となることで競争力を高め、長期的利益を維持し、スタッフへの分配、お客様への還元や社会貢献の源泉とします。



CO₂排出削減に向けた取り組み 再生可能エネルギーへの切り替え

2022年度、富士河口湖工場に太陽光パネル453枚を設置し、電力の一部を再生可能なものに切り替えます。事業活動で排出しているCO₂を削減するためです。業務改善による省エネも進め、技術と意識の両面で、脱炭素を実現します。



山神果樹薬草園が目指すこと 地域に還元する循環型農業の仕組みづくり

2020年に徳島県佐那河内村で本格稼働した山神果樹薬草園は、松山油脂の最も新しい事業所で、SDGsのフラッグシップです。周辺農家から集めた、キズや規格外などの理由で出荷されない和柑橘を原料にして精油を抽出し、ジュースやジャム、リキュールやコーディアルをつくり販売しています。最後の残渣も有機菌床堆肥にして、果実を丸ごと使いきります。その収益で、再度農家から果実を買い取り、加工し販売し、収益を上げる。山神果樹薬草園が目指す循環型の果樹農業です。

山神果樹薬草園が目指すのは再生と循環です。使われなくなったモノに新たな価値をつけて生まれ変わらせ循環させる。生業を通して「再生と循環」を実践し、持続可能な社会をつくっていきます。

